



# Muse Letter

2010.7 No.41

発行・札幌市博物館活動センター

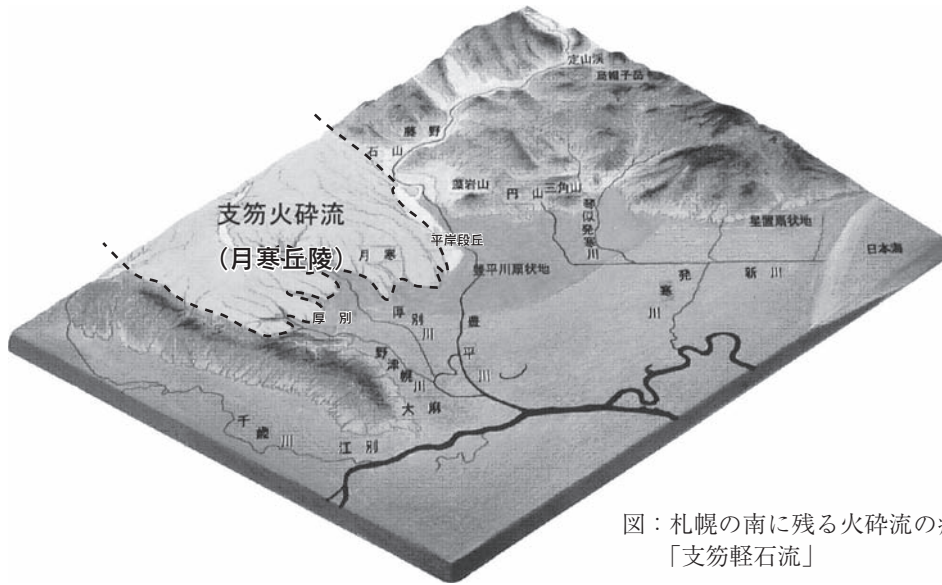
〒060-0001 札幌市中央区北1条西9丁目 リンケージプラザ内5階

TEL 011-200-5002 FAX 011-200-5003 <http://www.city.sapporo.jp/museum/>

## アイスランドの火山噴火

今年4月14日、アイスランド南部の火山から噴出した火山灰は、翌15日には風に流されてヨーロッパを広くおおい、6,000便が欠航する航空網の大パニックを引き起こしました。ちょっと噴火したくらいで何を大げさな！と思った方もいるかも知れませんが、実際に、1982年のインドネシアでの噴火では航空機のエンジンが火山灰を吸い込んで停止し、危うく大事故につながりかけました。

今回のアイスランドの火山噴火では最初の3日間でおよそ1億4千万 $m^3$ の火山灰が噴出したそうです。札幌ドーム（158万 $m^3$ ）を入れ物として考えると、およそ88杯分の火山灰です。すごい量ですね。同じ火山灰でも雲仙普賢岳（長崎県）の火山灰は高温の水蒸気とガスが火山灰と混ざり山を猛烈な勢いでなだれ落ちる火砕流が起きました。普賢岳は1990年から5年間の噴火でおよそ2億 $m^3$ の火山灰、札幌ドーム126杯分の火山灰を流しました。



図：札幌の南に残る火砕流の痕跡（月寒丘陵）  
「支笏軽石流」

札幌市民にとって、もっとも身近な火山灰は支笏火山の噴火による火山灰です。今からおよそ4万年前に噴出した支笏の火砕流で流れてきた火山灰は、現在の札幌付近を広く覆いました。その量はおよそ1千億 $m^3$ 、なんと札幌ドームおよそ63,000杯にもおおよびます。火山灰が厚く積もった南区では、中心部が熱と圧力で溶けて固まり、札幌軟石という石材として利用されました。石山緑地公園の白く高い崖は、石材として切り出した歴史とともに、当時の噴火の規模の大きさを感じさせてくれます。（古沢）



写真：石切り場の跡「石山緑地公園」

## 第8回自然探求サポート事業 野外調査スタート!

応募のあった中から今年のテーマと参加者が決定しました。夏休みには野外調査をスタート！今年も古沢学芸員が子供達の研究をサポートをします。

**「今生きている動物の中で、一番恐竜に近い動物は何だろうか？」**

(中央区、小学5年、女子1名)

**「化石はどのように発掘されるのか？」**

**「どのように博物館に入るのか？」** (白石区、小学4年、男子2名)



## ボーリング、はじめました。

ボーリングといっても球を転がすスポーツのほうではありません。地質調査の方法の1つで、地面にタテ(垂直)に筒を差して、地下のサンプルを抜き取ります。札幌の過去1万年前からの環境や地形の変化を調べるために調査を開始しました。今回は東区「サッポロさとらんど」付近で、地下30mまでのボーリング・コアを採取しました。この調査には北海道立地質研究所のご協力を得ています。



野外から持ち帰ったサンプルはカビないように冷蔵庫で保管します。



表面をはぎ取って乾燥させ、標本として保管します。

ボーリングコアは観察しやすい長さに切断します。

